

カキノヘタムシガの防除適期は5月30日頃です。

府中果樹研究所による見取り調査では、5月22日時点での越冬世代成虫数の50%発生予想日^{※1}は5月20日(平年：5月18日)で平年より2日遅い見込みです。越冬世代成虫数は6頭(平年：14.7頭)で平年より少ない発生量で推移しています。幼虫の果実への食入は成虫発生最盛期^{※2}の約10日後から始まるため、防除適期は5月30日頃と予測されます。

1. 発生状況

(1) 発生時期：府中果樹研究所による見取り調査では、5月22日時点での越冬世代成虫数の50%発生予想日は5月20日(平年：5月18日)で平年より2日遅い見込みです。

発生量：越冬世代成虫数は6頭(平年：14.7頭)で平年より少ない発生量で推移しています(図1)。

(2) カキノヘタムシガは成虫発生最盛期の約10日後に幼虫の果実への食入が始まるとされており、本年の防除適期は5月30日頃であると予想されますので、遅れないように防除しましょう。

※1：50%発生予想日とは見取り調査において初確認からの確認累積数とその世代の総確認数の50%を超えると予想される日です

※2：成虫発生最盛期は50%発生予測日とほぼ同じであると考えられます

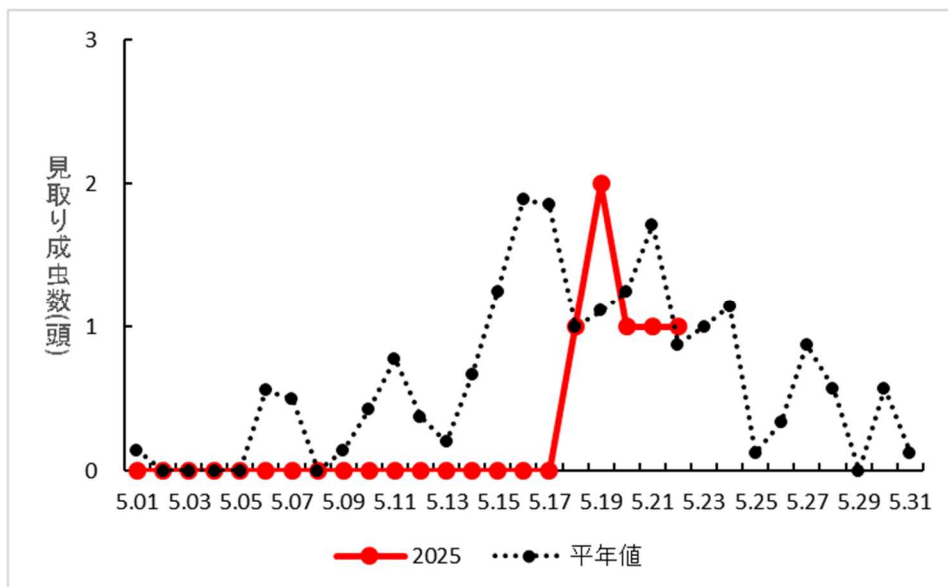


図1 カキノヘタムシガ越冬世代成虫見取り調査結果(調査地点：府中果樹研究所)

※府中果樹研究所調査データを基に加工作図、平年値は直近10年間の平均

2. 防除対策

- (1) カキノヘタムシガ(*Stathmopoda masinissa*)はカキの芽や果実を加害する害虫です。本種は年2回発生し、主に芽に産卵し、ふ化した幼虫はいくつかの芽を食害した後、果実を食害します。食害された果実はやがて変色して落果します。果実内部に食入した幼虫には散布した薬液が十分に到達しないため、防除は幼虫が果実に食入する前までに実施する必要があります。
- (2) カキ「富有」における第1世代幼虫の防除適期は満開10日後であるとの報告があり、「富有」のある園地では満開期の10日後も防除適期の目安になります。
- なお、府中果樹研究所における「富有」の満開日は5月19日(平年:5月17日)でした。
- (3) 防除薬剤は、主要農作物病害虫雑草防除指針、香川県監修の果樹病害虫防除暦を参考にしてください。

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。

・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

